実施計画例８　地震後の津波による二次避難を想定した避難訓練

設定時間、設定場面、設定状況。体験的、実践的な避難訓練にするための改善の視点

授業中に地震が発生。揺れが収まった後に、校庭に集合し安全点検をしていたところ、津波警報が発令された。そこで、屋上に二次避難を行う。

【Bーケ】地震発生後、火災の発生や津波警報の発令等、被害の拡大により複合災害を想定する。

【Cー(2)ーア】訓練実施日は予告しておくが、想定災害の発生時刻や被害状況を予告しないで実施する。

１　時間・場所等

午前１０時２０分、地震が発生する。その後、津波警報が発令される設定(計１５分間)

２　避難訓練の時系列及び児童・生徒及び教職員の動き

時間等	設定状況等	児童・生徒の動き等	教職員の動き
10時20分	●授業中、震度6弱の地震が発生 (児童・生徒への予告なし)	●「落ちてこない・倒れて来ない・移動してこない」空間がどうか、確認し、安全行動をとる。	●緊急地震速報のチャイム音を放送する。 ●校内放送で「訓練。大きな地震です。『落ちてこない・倒れてこない・移動してこない』に留意すること。」等と周知する。
10時21分	●校庭への集合訓練	●学級ごとに校庭に避難する訓練を行う。	●校内放送「訓練。学級ごとに校庭に避難する」ことを周知する。「お・か・し・も」の意義を確認する。
10時25分	●避難完了		●各学級の人員点呼と安全確認
10時26分	●津波警報発令。校舎屋上に二次避難する。	●津波警報(高い波)が発令されたことを知る。	●津波警報(1メートルから3メートルまでの津波)が発令され、校庭から屋上に二次避難することを児童・生徒に伝える。 ●事前に、校庭から屋上への動線(経路)を確認し、各学年ごとに直近の階段を上がるように確認しておく。また、将棋倒し等の事故が発生しないように留意する。
10時33分	●二次避難完了	●屋上では、学級ごとに集合し、安全確認を受ける。	●担任は学級の状況を本部に報告する。 ●屋上の安全管理を徹底する。
当日	●事後指導 【教室で学級指導】	●沿岸部にいるとき、大きな地震が起こったら、津波が来る可能性を考え、すぐに高台に避難することを知る。	●東京湾で予測される津波は最大2．6メートルであるが、児童・生徒が夏季臨海学校等や私事旅行等で沿岸部に旅することも考えられることを踏まえ、大地震後の津波の危険について指導する。

※ 本計画例は、東京湾沿岸部の学校を想定したが、内陸部の学校で同様の設定の避難訓練を行うことは、児童・生徒に危険を予測し、回避する能力を育てるために意味がある。内陸部に居住する児童・生徒も沿岸部に旅行等でいくことが十分に予想されるためである。

※ 本事例は、津波による二次避難の訓練であるが、火災発生による校庭避難後、さらに安全な場所へ二次避難を行う等、他の設定による二次避難訓練も重要である。